

「子ぶり石」に新しい仲間

石川県能登半島の先端近く、珠洲市の今から 1,000 万年以上昔の海底に珪藻という二酸化ケイ素の殻をもった小さなプランクトンの死がい^{けいそう}が堆積してできた珪藻土といわれる地層の中に、写真1のような不思議な形をした「子ぶり石」とよばれる石が入っています。地元では「子ぶり石」の奇妙な形から、「菩薩石」「仏石」などともよばれています。このような石は他では見つかっておらず、どのようにしてできたのか、今もよくわかっていません。

ところが最近、「子ぶり石」とよく似た、写真2のような石が青森県津軽半島から発見されました。良く似ているでしょう？「子ぶり石」とそっくりです。発見者の加賀沢秀美さんはこれに「新津軽小僧」と名前をつけました。



写真1：能登の子ぶり石



写真2：青森県で新たに発見された新津軽小僧

新津軽小僧の産出する地層は、子ぶり石と同じ時代のもののようですが、細かいことはまだわかっていません。どうも、珪藻土と同じような成分の火山ガラスが堆積した凝灰岩中に見られるようです。

子ぶり石と新津軽小僧、二つの石の形は良く似ていますが産出する様子に違いが見られます。新津軽小僧の産出の様子や周囲の地質をもう少し詳しく調べ、「子ぶり石」との共通点や相違点を比較することによって、「新津軽小僧」や「子ぶり石」のでき方を探してみたいと思っています。

(2009年2月 赤羽久忠)